

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17H06100	研究期間	平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度
研究課題名	機械可読時代における文字科学の 創成と応用展開	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	内田 誠一 (九州大学・システム情報科学研究 院・教授)

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、文字の有する機能を4種に分け、その定量化と機能最適化による「文字科学」を創出するものである。</p> <p>フォントの大規模解析や画像変換に基づくフォントの生成など、優れた研究成果が産出されており、順調な進展を見せている。さらに、分野を代表する国際会議で多数の論文発表がなされている点、技術の社会展開を図っている点なども高く評価できる。</p> <p>今後は、定量化と機能最適化に関わる研究をより一層発展させ、計画に掲げた「文字科学」の世界が見られることを期待する。</p>		